

原発問題住民運動東京連絡センター
原発問題を考える狛江の会 学習講演会



あらためて問われる
原発の安全性

増田善信(元気象研究所研究室長・理博)

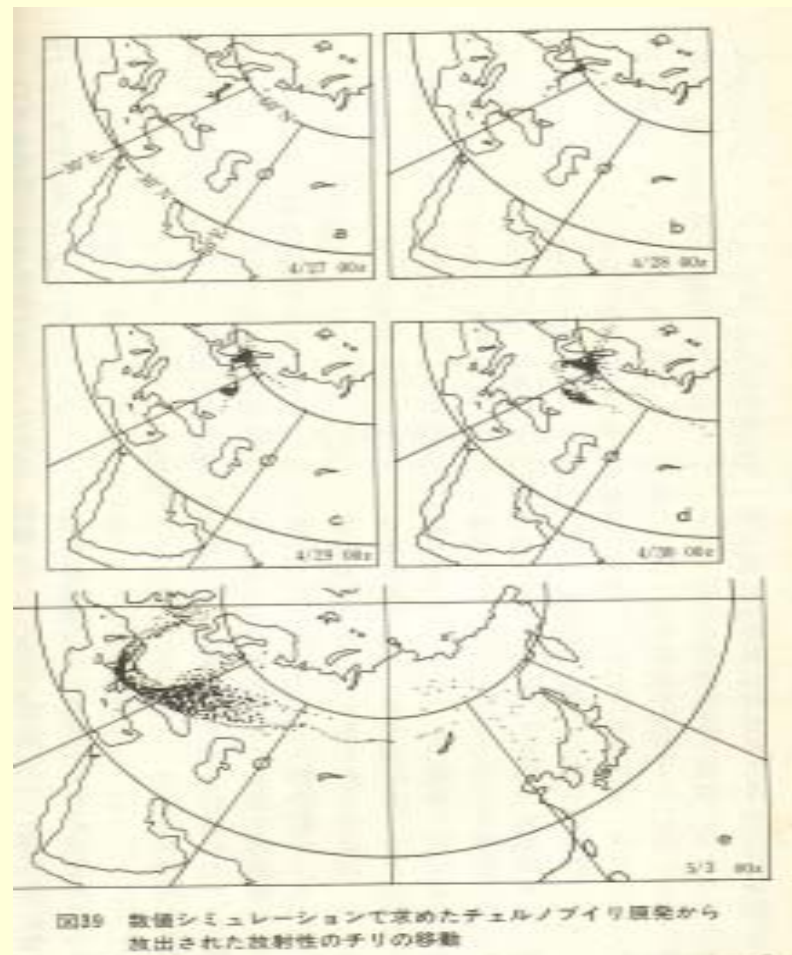
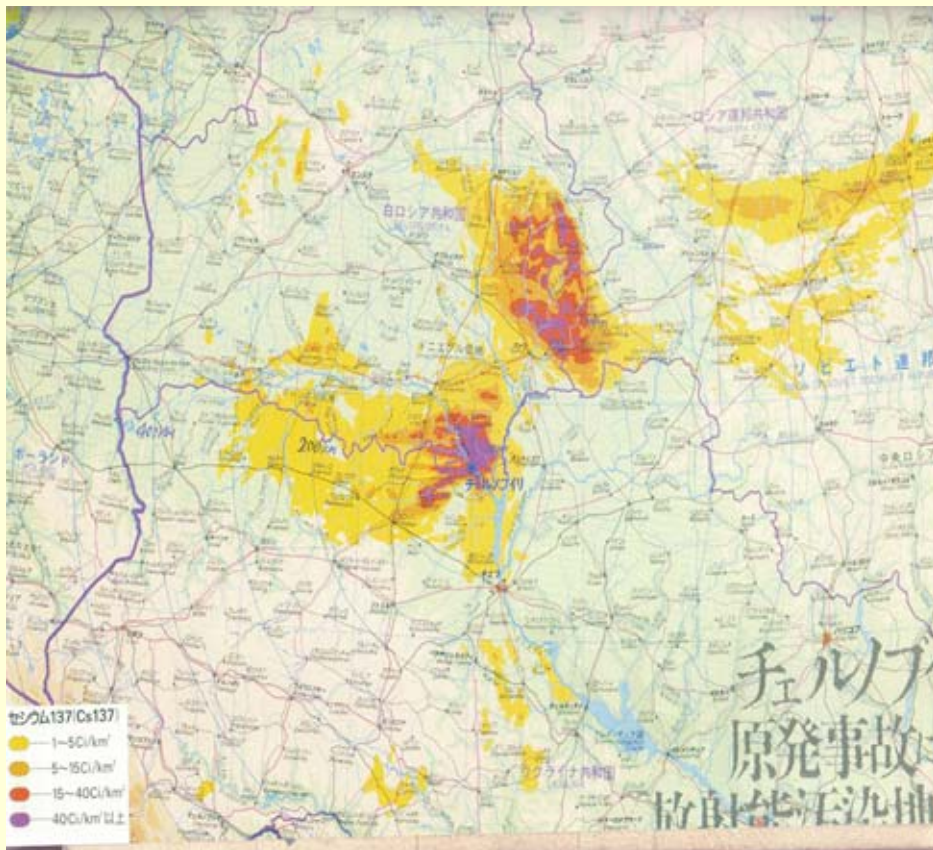
日時:2010.12.06、19:00

場所:狛江市、泉の森会館 3F

事故直後のチェルノブイリ原発と石棺



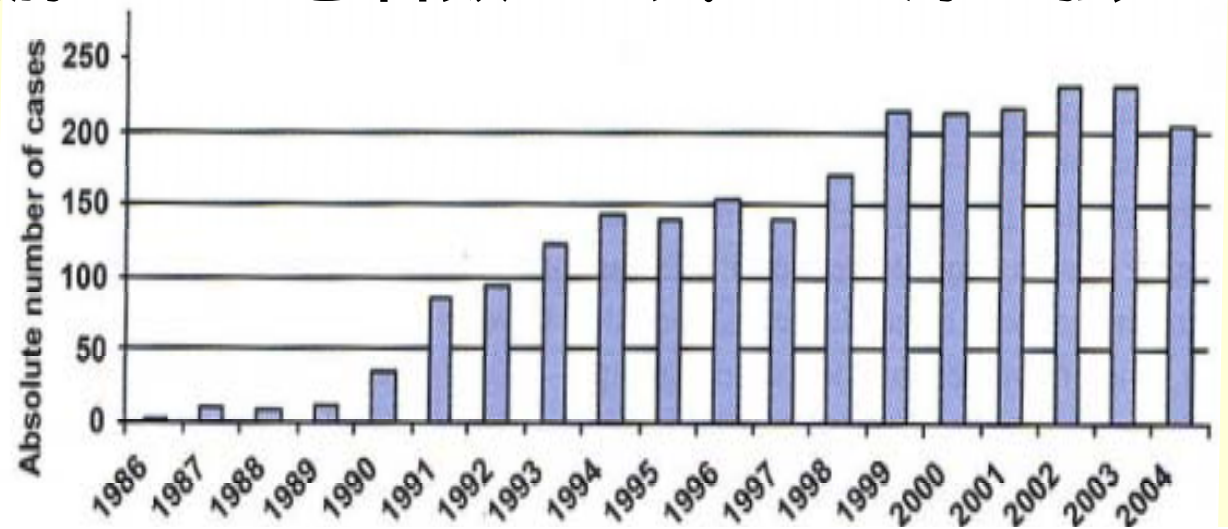
チェルノブイリ原発の汚染地図 と放射性粒子の拡散状況



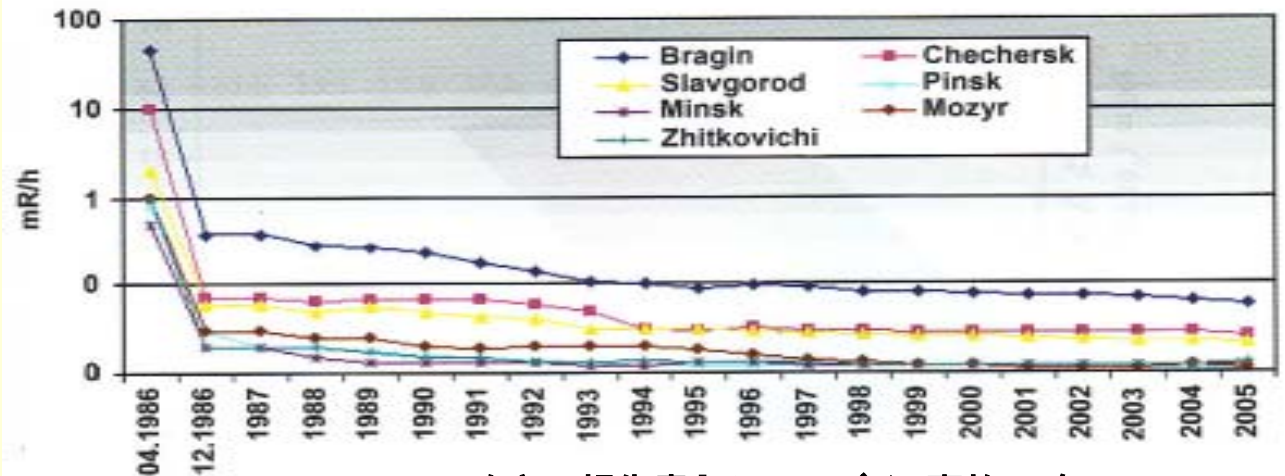
チェルノブイリ原発事故による

子供の甲状腺ガンの患者数と空気の線の強さ

被曝した0 - 18歳の子供の中の甲状腺ガンの患者の絶対数



ベラルーシの各都市の空気の線の強さ(ブラーギン80 $\mu R / hr$ 、これはバックグラウンドの8倍)



ベラルーシ政府の報告書「チェルノブイリ事故20年」より

事故処理に使った機器の墓場



事故10年後でも5
分間はいられない
ほどの高放射能



中越沖地震と柏崎刈羽原発の事故

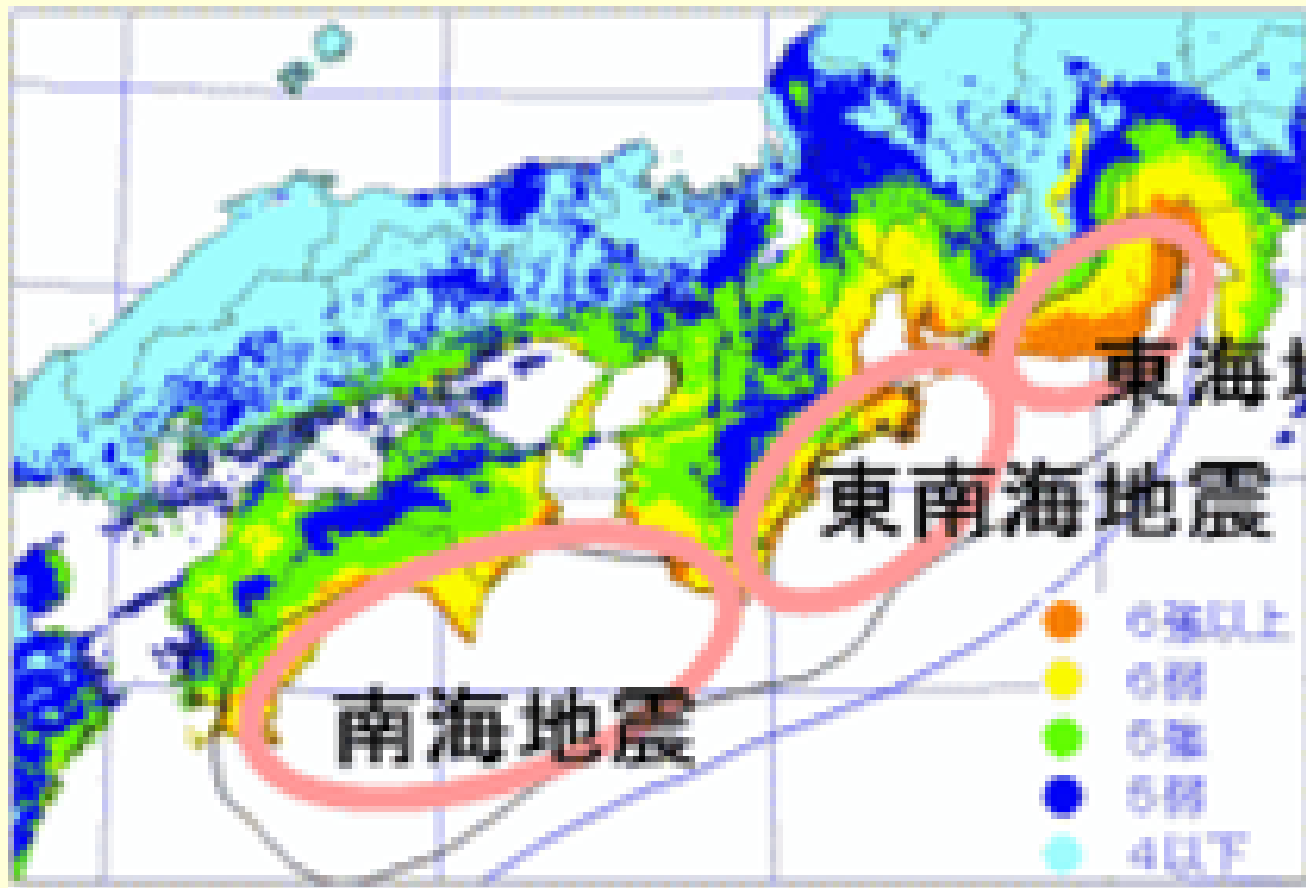


(地震調査委員会の原図を基に作成)



東海・東南海・南海地震の発生確率

今後 30年以内 に巨大地震の発生する確率は



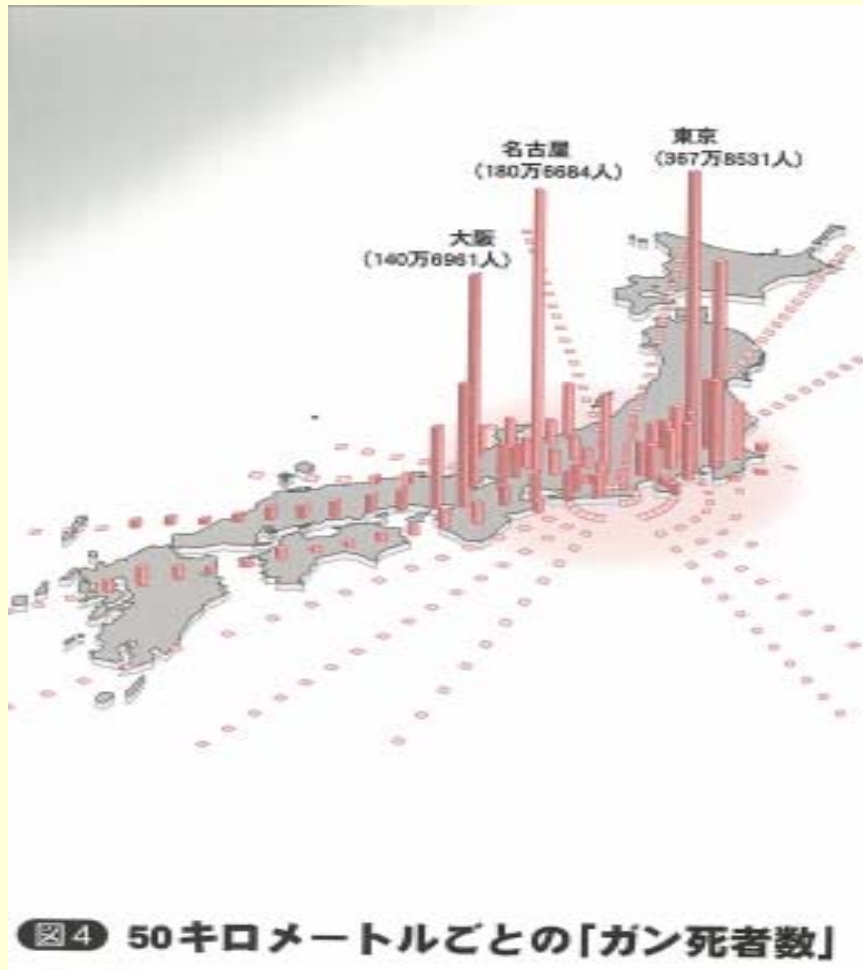
東海地震	87%
東南海地震	60%
南海地震	50%

東海地震は、明日にでも発生しても不思議でない状態です。

又、東南海地震と南海地震は日本最大級の地震とされています

Jjj-netより

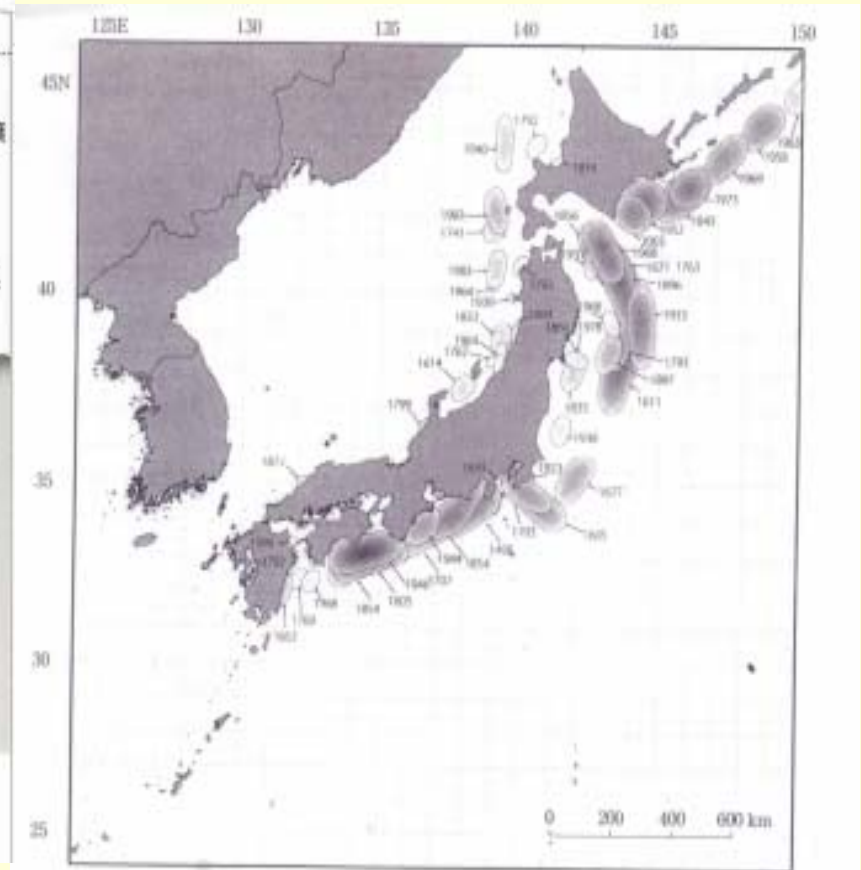
もし浜岡原発が過酷事故を起こしたら



東海大地震の想定震源域と 日本近海の大津波の波源域

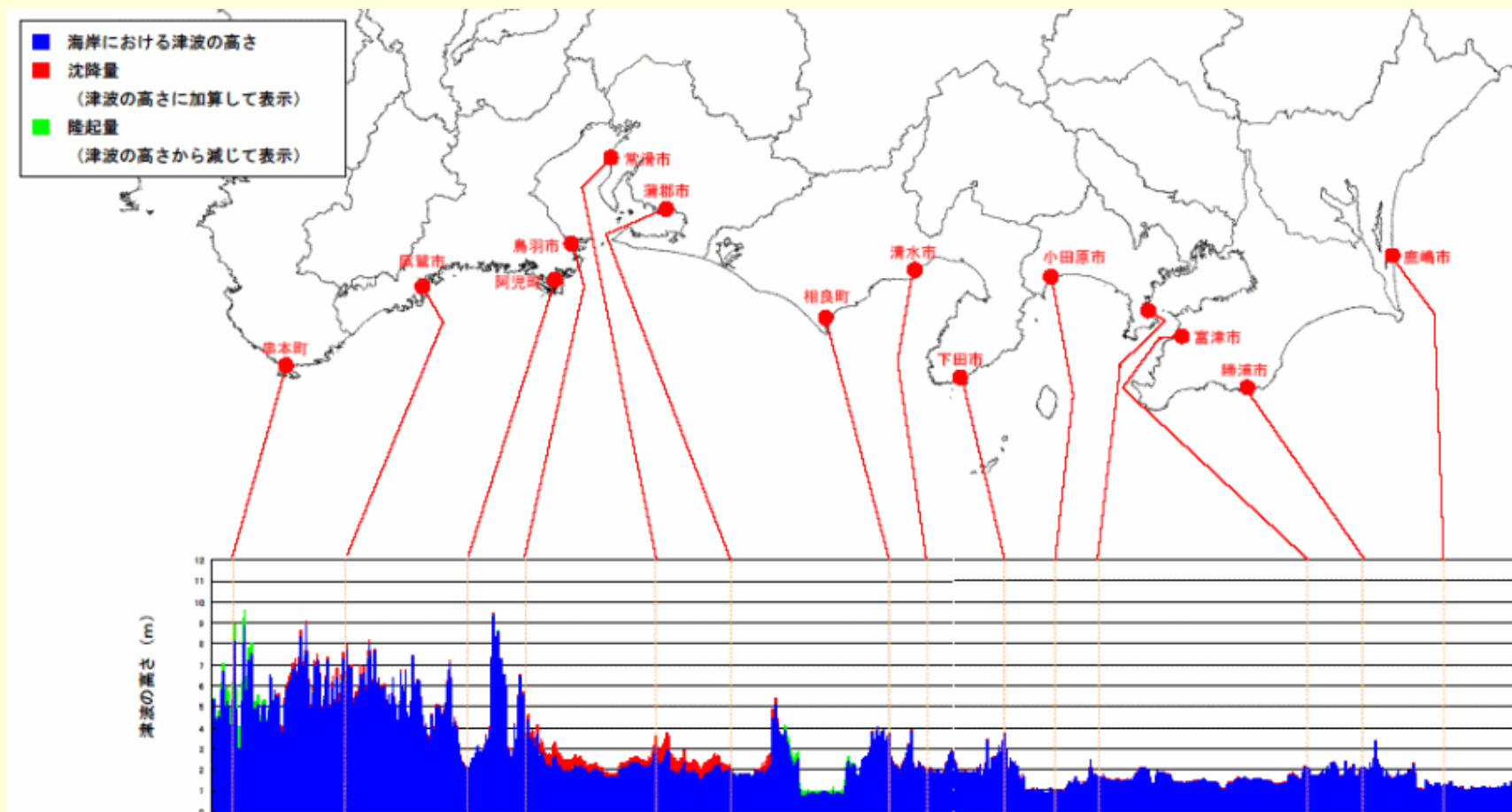


高橋繁行「衝撃の原発事故シ
ミュレーション」別冊宝島より



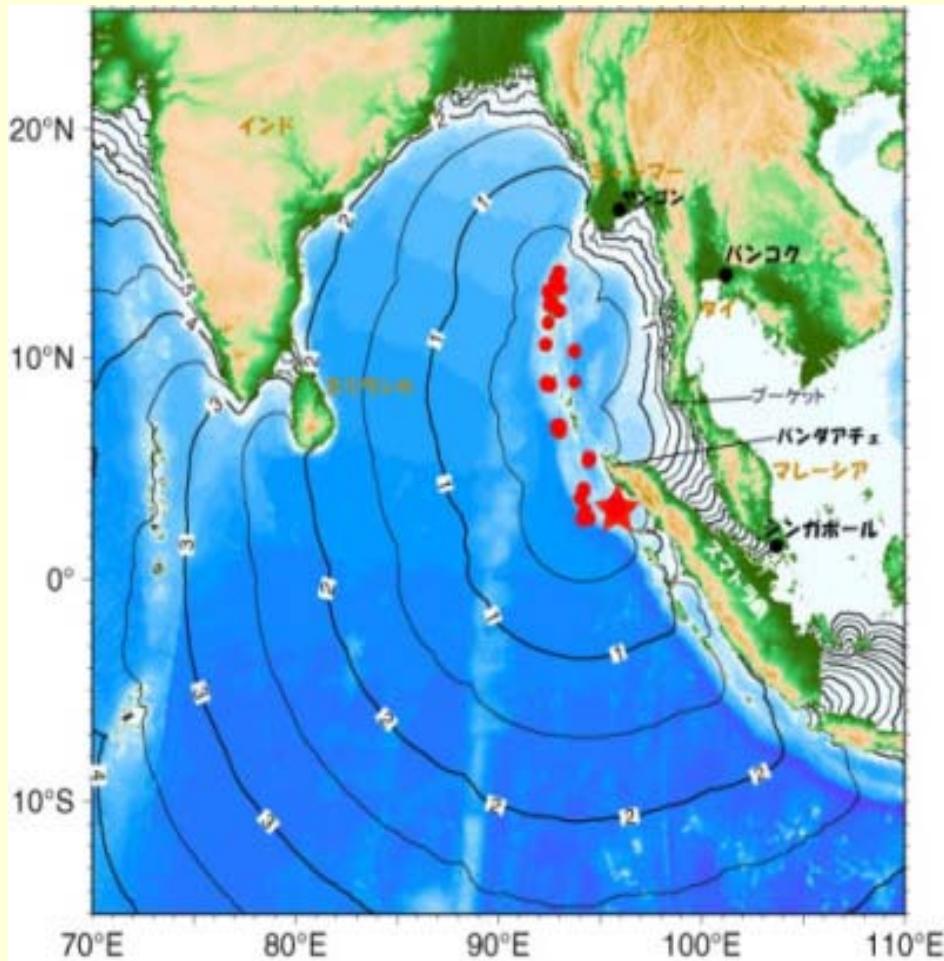
山中浩明編「地震・津波ハザードの評価」

東海・東南海・南海地震の津波予想



スマトラ島沖の大津波

2004年12月26日

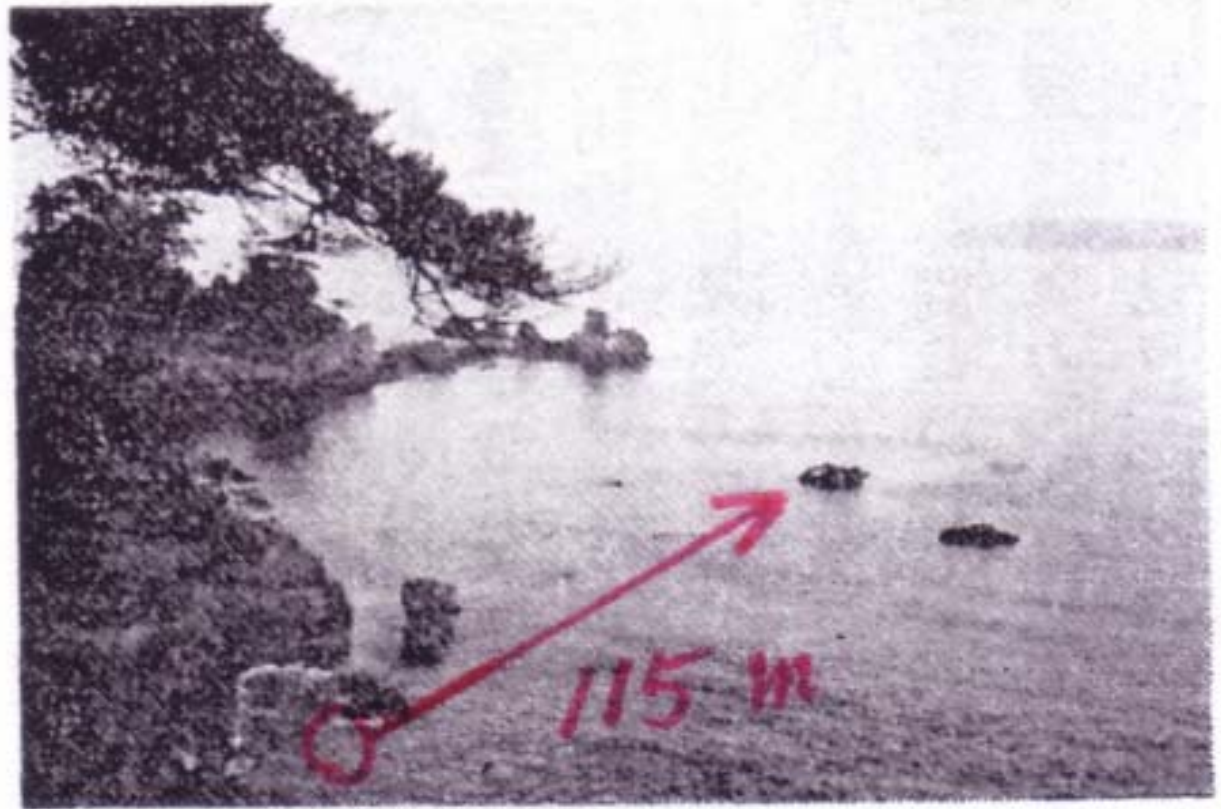


バンダアチェ西海岸では20mを超える津波の跡が9カ所、うち3カ所は30m以上で最大は34.9mを記録

三陸大津波の破壊力

1896年(明治29年)6月15日

津波の波高、岩手
県綾里で38.2m、
死者約22,000人。
この津波で重量推定
733トンの「鼻ぐり
岩」約115m移動



三好 寿「津波のはなし」より

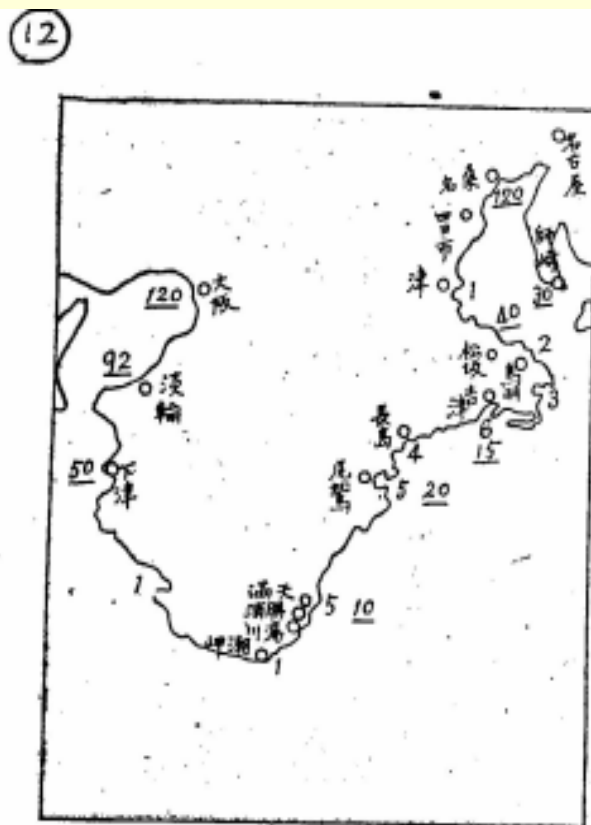
東南海地震の震度分布と津波

(1944年12月7日)

M8.0前後、死者・行方不明約1223名。最大波高は、尾鷲市賀田地区で記録された9mという。ただし、この調査では5m。



1944年12月7日の東南海地震の震度分布図



東南海地震の津波の高さ及び其の襲来時期

東南海地震の際の尾鷲の津波

1944年12月7日



山下文男「日本津波史誌」より



米国立公文書館で見つ
かった東南海地震直後
の尾鷲の航空写真。
印は津波で打ち上げら
れた船(日本地理センター提供)

南海道地震の震度分布図と 地震・津波の被害分布図

1946年(昭和21年)12月21日



M8.1の大地震。最大波高、和歌山県
串本町5.5m。田辺市では約80ト
ンの船が道路や線路を越え400
m流される

中央气象台「南海道大地震調査概報」より

台風第0418号の高波の猛威

(南大東島、2004年9月4～5日)



岩塊の剥離場所



岩塊の移動経路

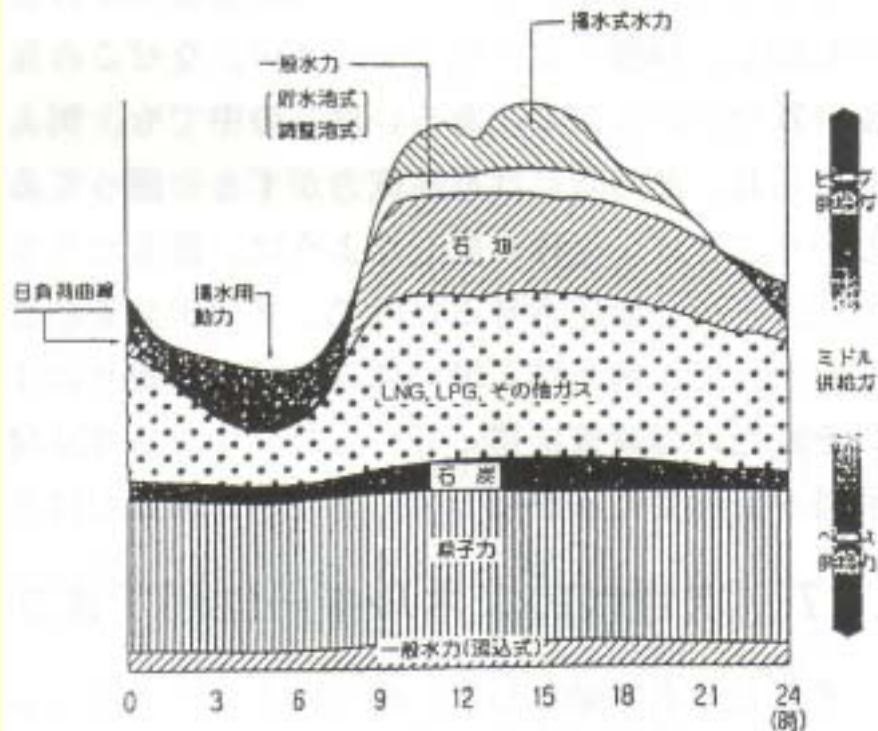
約10トンの大
岩塊が港に通
じる坂道を約3
0m持ち上げら
れ、別の港に
落下



亀池港の大岩塊

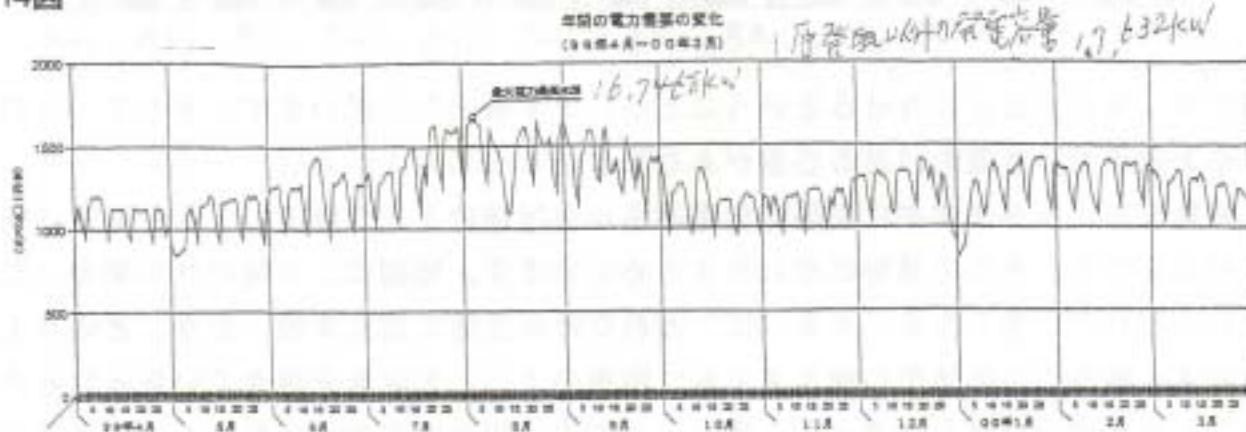
13図

一日の時間帯別発電



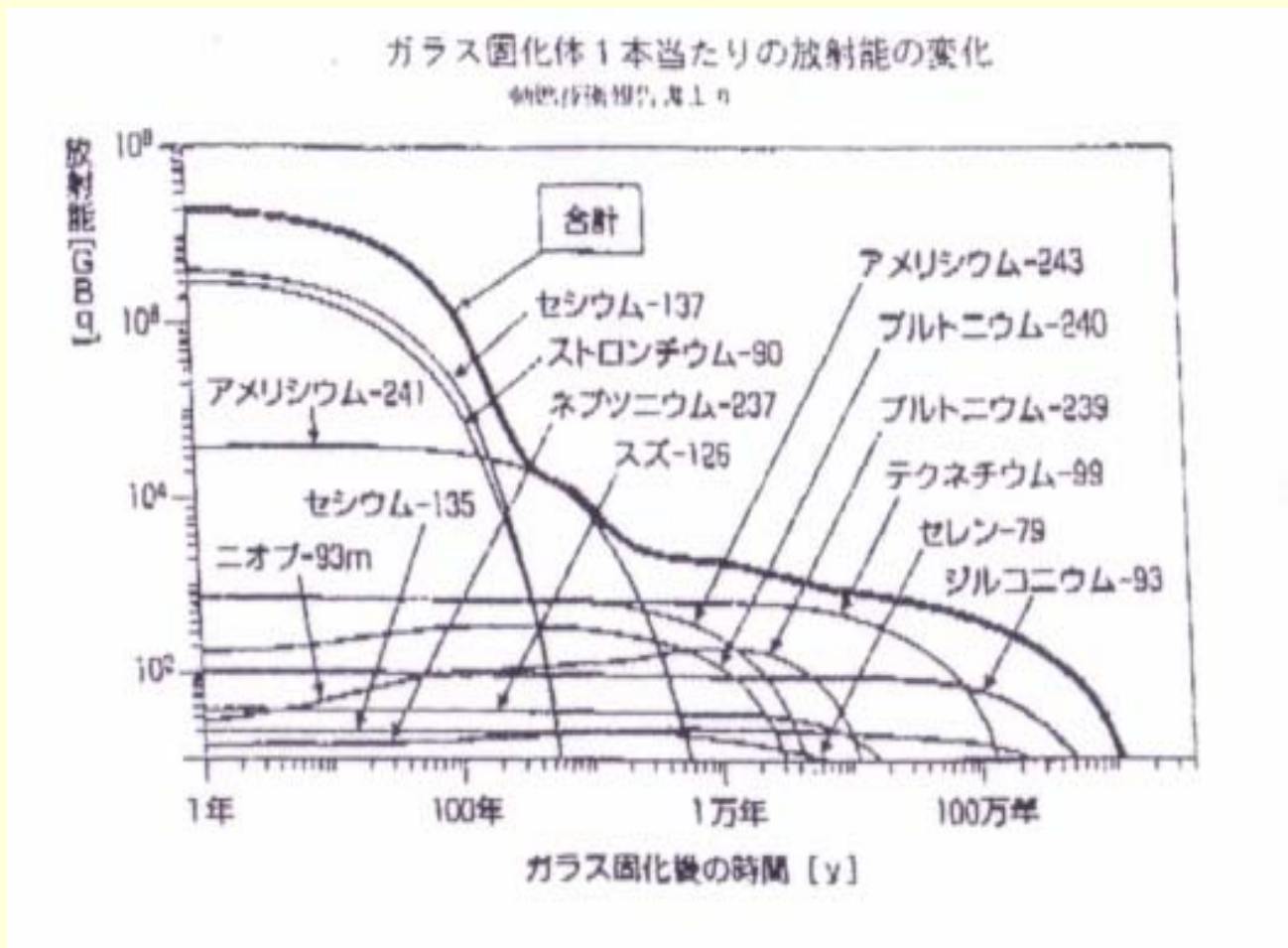
原発なしで
電気は
賄えるか

14図



使用済み核燃料の放射能の変化

縦軸も横軸も目盛りは対数目盛。初期放射能は時間とともに急速に減衰するが、使用済み核燃料の中には新しい核分裂物質が生まれてくるので、何時までも放射能が残る



原発の実用化は不可能か？

「安全な原発」の条件－安全炉の研究

- 1, 自動制御して暴走を防ぐ
- 2, プルトニウムを作らないトリウムを使う
- 3, 既に「溶融塩炉」研究がある

使用済み核燃料の安全な処理

- 1, 高レベル廃棄物を低レベル廃棄物に変える

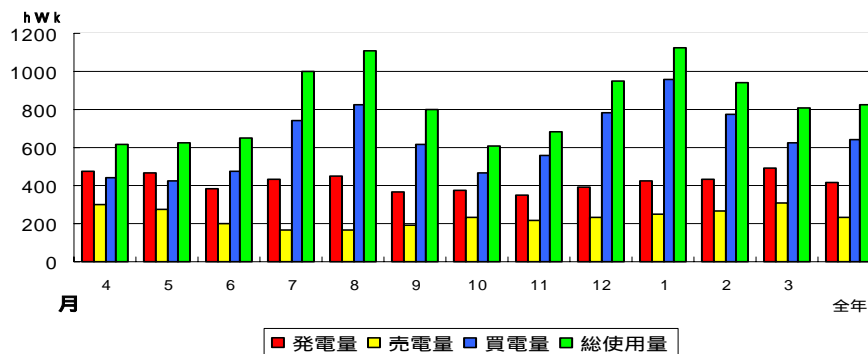
次世代路面電車と自転車の利用



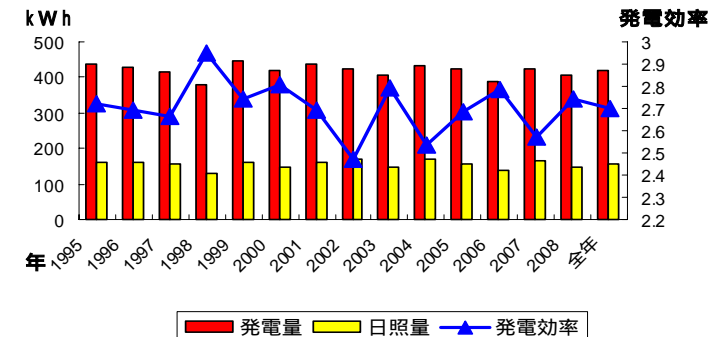
増田邸屋根太陽光発電・右同インバーター



増田邸太陽光システム14年間の実績



発電量と日照量および発電効率の経年変化

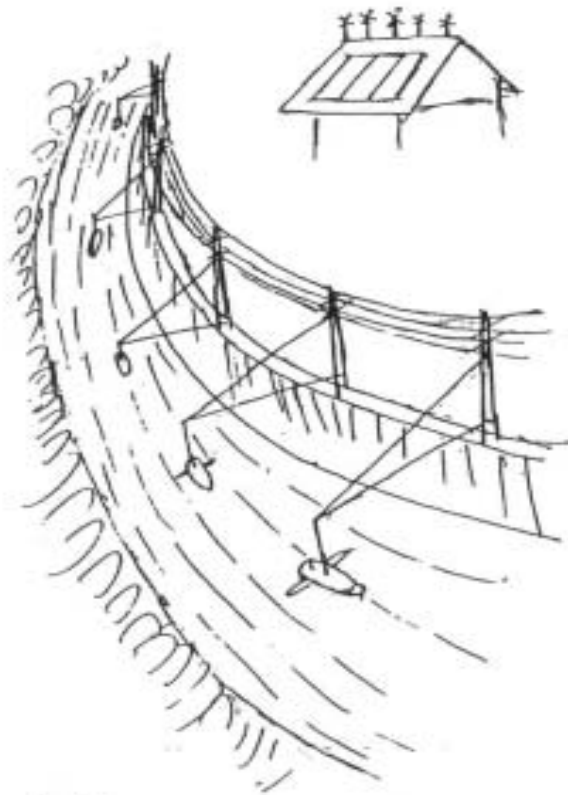


自然エネルギーの活用と 持続可能な社会

持続可能な社会とは

戦争のない平和な社会が基本
再生能力、浄化能力の範囲内
で生活が営まれる社会

具体的には法律・条約で規制する
「ルールある社会」



小型水力発電と
風車発電
太陽光発電